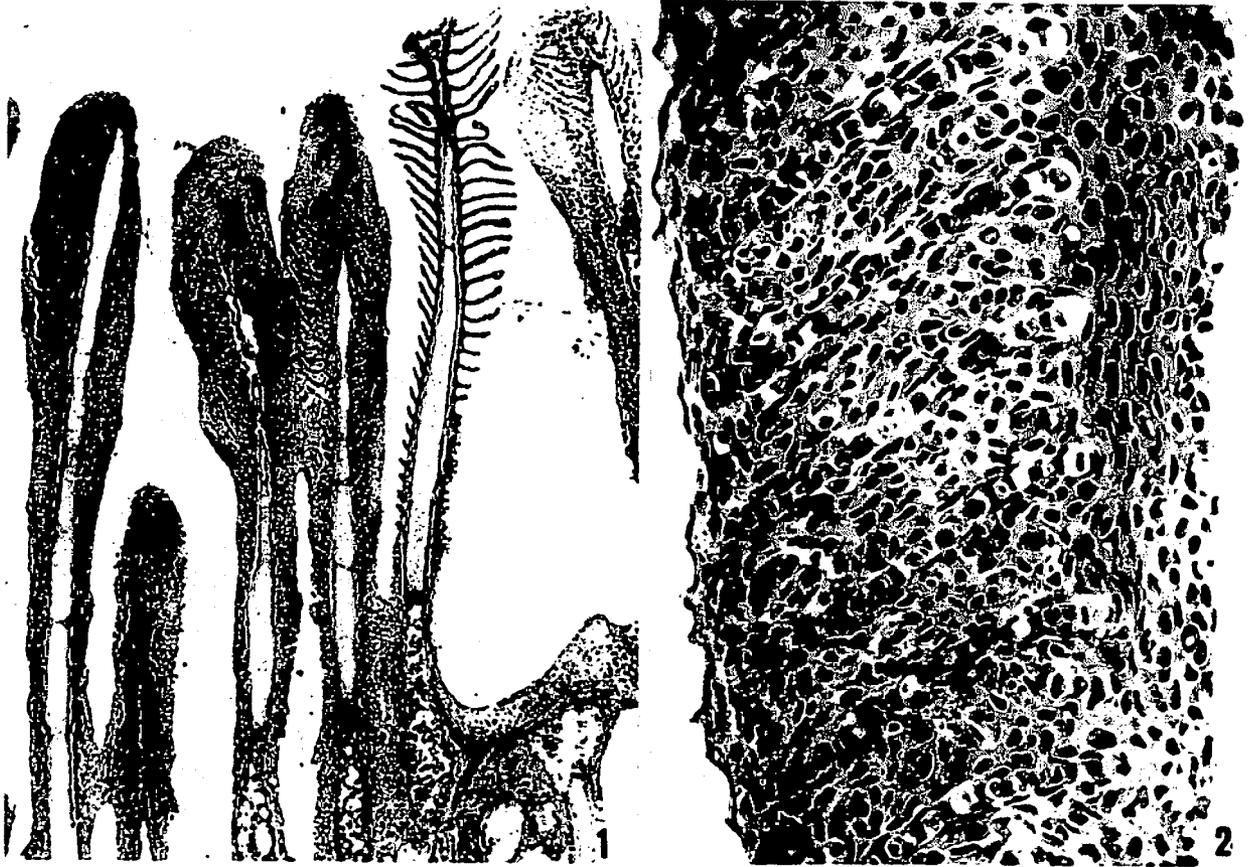


アマゴの鰓

岐阜大学農学部家畜病理学教室出題 第23回獣医病理学研修会標本No.392



動物：アマゴ，雌，年齢不明。

臨床事項：岐阜県内の某養魚場で数年前より本病を含む原因不明の疾病によりアマゴが大量死しており，その対策に苦しんでいた。細菌染色できわめて多数の菌が染色されたが同定できなかつたと言う。

剖検所見：鰓に黒色壊死巣らしき病巣の見られた他，その他の臓器には著変は認められなかつた。

病理組織学的所見：本症例の特徴的な病理組織像としては二次鰓弁上皮細胞の旺盛な増殖に伴う隣接二次鰓弁との癒合を指摘できる（図1，HE， $\times 35$ ）。この増殖巣は，専ら，ヘマトキシリンに淡染する円形ないし楕円形の核を有し細胞質の豊富な細胞から成る。その深層部では立方形で，表層に向かって次第に扁平な細胞質を有するようになり，その密接した配列様式は重層扁平上皮のそれに極めてよく類似している（図2，HE， $\times 350$ ）。この二次鰓弁を埋めつくす高度の細胞増殖巣内には毛細血管の新生はもとより，膠原線維や好銀線維の増生も全く認められない。又，二次鰓弁毛細血管の基底膜の肥厚や断裂も見られず，その損傷は軽微なものである。このような増殖細胞巣の深層部には多量の好酸性顆粒を有す

る細胞が，又，その表層部にはPAS反応陽性の粘液細胞が増数する。かくして，大多数の鰓弁では二次鰓弁が互いに癒していわれる棍棒化と言う像を示すが，癒合しない所もある。このような二次鰓弁では本来なら単層扁平上皮であるはずの鰓上皮は腫脹し立方状となり，空胞変性におちいり，ついには剝離するに到る。そしてこのようなピランを起した鰓弁では二次鰓弁毛細血管周囲の残存上皮や二次鰓弁間細胞が毛細血管に沿って増殖し始める。

組織診断：単層扁平上皮細胞から成る鰓上皮にピランがまず起り，引き続いて生体は損傷が少なくその基本的構造をほとんど失っていない二次鰓弁毛細血管周囲に残存する上皮細胞や二次鰓弁間細胞の増殖と言った反応を示し，ついにはピランを起した二次鰓弁を埋めつくすに到る。この過程は鰓上皮細胞のピランに引き続く重層扁平上皮化生と考えたいのである。なお，この病変と細菌，ウイルス，化学的あるいは物理的的刺激等との因果関係は特定できなかつた。

診断名としては鰓上皮の重層扁平上皮化生とした。